

6年3組 外国語科学習指導案

授業者 乗富 智子

James Hoffman

授業① 6年3組教室

1 単元名 小学校生活の思い出 (CROWN Jr. 6. Unit 2 JUMP 2)

2 単元のねらい

小学校生活の思い出を共有するために、過去にしたことや楽しんだこと、その感想などを伝える語句や表現などを用いて、小学校生活をふり返って小学校のいちばんの思い出を先生や友達に伝えることができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「発表」	① 過去にしたことや楽しんだこと、その感想などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 (知識) ② 過去にしたことや楽しんだこと、その感想などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す技能を身に付けている。 (技能)	① 思い出を共有するために、聞き手に問いかけるなどして、小学校生活をふり返って小学校のいちばんの思い出を伝えている。	① 思い出を共有するために、聞き手に問いかけるなどして、小学校生活をふり返って小学校のいちばんの思い出を伝えようとしている。
聞くこと	① 過去にしたことや楽しんだこと、その感想などを伝える語句や表現を理解している。	① 思い出を共有するために、小学校の思い出を聞いて具体的な情報を聞き取っている。	① 思い出を共有するために、小学校の思い出を聞いて具体的な情報を聞き取ろうとしている。

4 本単元で重点的に育成を図る資質・能力

伝える力	① 相手や目的に合わせて、表現の工夫(図・表・グラフ・式・写真・動画など)をしている。 ② 考えの理由や根拠を説明している。 ③ 相手や自分の考えが伝わったか確認している。 ④ 相手や場面に合わせて言葉を選ぶことができる。
課題を発見する力	① 地域や身の回りの生活から困っていることや解決したいことを見付けている。 ② 理想とする姿を思い描いている。 ③ 理想を実現するために達成しなければならないことを考えている。 ④ 理想を実現するための具体的な方法を考えている。

評価する力	① 目標と照らし合わせて何ができるようになったかわかる。 ② 目標と照らし合わせて何ができていないかわかる。 ③ 次の学習や他の学習にいかせるような学び方を見付けることができる。
-------	---

5 指導にあたって

(1) 教材観

小学校6年間、児童は様々な経験と共にたくさんの思い出をつくってきた。その思い出が、児童一人一人の成長につながっている。思い出を語り合う中で感じる、あたたかく満たされた気持ちや、共に過ごした相手への感謝の気持ちは、児童にとって大きな心の支えとなるものである。また、そうした気持ちを味わうことは、「これから頑張っていこう」、「これから良い思い出をつくっていきたい」という前向きな姿勢や人とのつながりを大切にする心を育むことにもつながる。過去の自分をふり返り、教師や友達と共有することで、これまで頑張ってきた自分に気付いてほしい、そして未来の自分の成長への第一歩としてほしいと願い、本単元を設定した。

本単元は、Unit 2 のまとめの単元である。これまでに学習した各レッスンでの学びを生かし、2学期の学習のゴールに迫る。これまでのレッスンでは、様々な動詞の過去時制や状態の変化を表す語句や表現に習熟してきた。本単元ではこれらの学びをふまえ、小学校生活の思い出を共有するために、小学校のいちばんの思い出を友達や先生に伝えることを目的としている。思い出を伝えることを通して、自分のこれまでの経験をふり返ったり、今の自分と比べて成長に気付いたりすることができるとともに、これまでの学びを活用して、自分の思い出について語るができるようになる教材である。

(2) 児童観

2学期のはじめに、「小学校生活のいちばんの思い出は。」と児童に問うと、5、6年生での宿泊体験学習などを挙げる児童が多かった一方で、「まだこれから思い出が増えるかもしれない」、「いちばんと言われるとなかなか思い出を選ぶのが難しい。」と答える児童もいた。「いちばんの思い出」と問われると、ほとんどの児童が5年生や6年生での思い出を挙げており、低・中学年までの思い出や、これまでの思い出が今の自分の成長につながっていることに気付いている児童は少ない。

また、これまでのレッスンで過去のことを表す語句や表現を学んできた。be 動詞の過去形や went、saw など、動詞の不規則変化については習熟している様子が見られるが、enjoyed などの規則変化やその後に続く動名詞についてはあまり定着していない。動詞の過去時制の語句や表現については、定着状況に大きな個人差が見られる。

伝える力においては、これまでに学習した語句や表現などを使って、自分の伝えたいことを伝えようとすることはできるが、「正しく言う」という正確さにこだわる傾向が強く、英文を書いてそれを読もうとしたり、安易に翻訳機を頼ったりすることがある。

課題を発見する力においては、Unit 1 の学習で自分の設定したマイゴールを達成するための学習方法を考えたり学習計画を立てたりした。しかし、マイゴールの設定にあたって、「すらすら言えるようにする」「間違えないで言えるようにする」など話すことの正確性にこだわったり、「相手にわかるように話す」など相手に何をわかってほしいのかが明確でないマイゴールにしたりする様子が見られた。

評価する力においては、毎時間の授業で、各レッスンのねらいに対して今の自分がどの程度達成できているのかを自己評価させたり、ねらいを達成するには今後どのようなことを頑張ればよいかを考えたりするふりかえりに取り組ませた。今の自分の学びの状況を正確に評価できる児童もいれば、評価が曖昧

味な児童もいる。また、各レッスンの終末のふりかえりでは、自分が学習した内容について記述することはできるものの、自分の学び方をふり返ったり次の学習にどう生かすかを考えたりして記述している児童は少ない。

(3) 指導観

2学期（Unit 2）の学習のゴールを「小学校生活いちばんの思い出を友達に伝えよう」とした。2学期初めの導入の際、教科書の動画教材を視聴して、学習のゴールを児童と共有した。その際、ゴールとなる言語活動に一度取り組ませたことで、児童は今の自分にできること、できないことを認識している。学習のゴールを達成するために必要なことを児童が自覚した上で、各レッスンの学習に取り組むことができるようにした。

第一次では、一人一人が自分の目標をもって計画的に学習を進めるができるよう、児童が本単元の学習のゴールと関連させた「マイゴール」を設定し、それに応じた学習計画を立てる。まず、児童がゴールとなる言語活動の目的や場面、状況について理解できるようにするために、これまでに児童を担当してきた教師の思い出を聞かせる。課題を発見する力の育成のために、それぞれの教師の思い出を聞いた時、どのような気持ちになったかを問う。思い出を共有したときの温かな気持ちを味わうことで、自分が思い出を伝えた時に相手にどのような気持ちになってほしいかを考え、マイゴールを設定することができるようにする。また、評価する力の育成のために、ゴールとなる言語活動に再度挑戦させ、今の自分にできること、できないことを自覚することで、自分の学習状況に合わせた学習計画を立てることができるようにする。

第二次では、第一次に立てた学習計画に沿い、児童が自分で学習を進める。教師が新たな言語材料を指導することは行わず、マイゴールの達成に向けた学習を児童が自分の力で進められるようにする。伝える力の育成のために、教師の思い出を紹介するモデルを示すことで、一方的に伝えるだけでなく相手に問いかけるなどの伝える工夫に気付くことができるようにする。また、マイゴールを想起させ、それに応じて内容を整理して伝えることができるようにする。

第三次では、小学校生活のいちばんの思い出を教師や友達に伝える。写真やイラストなどとともに自分のいちばんの思い出を相手にわかりやすく伝えるようにする。また、評価する力の育成のために、第一次で設定したマイゴールの達成度について、学習を通してできるようになったことや、できるようになるために効果的だった学び方などを問うことで、自分の学び方をふり返り、次の学習へとつなげることができるようにする。

6 単元計画（総時数5時間）

次	時	学習課題とまとめ	・9つの資質能力の育成に関わる手立て	評価
一	1	＜マイゴールを決めよう＞ 本時 先生たちの思い出を聞いて、その時のことを思い出して懐かしい気持ちがしたよ。自分の思い出を伝えた時も、共感してもらえたり、懐かしいなあって思ってもらえたりできるといういな。	・これまでの担任の教師の思い出を聞いた時の気持ちを問うことで、マイゴールを設定する際のポイントに気付くことができるようにする。 （課②）	

	2	＜学習の計画を立てよう＞ 一度やってみると、できていることとできないことがわかった。マイゴール達成のために必要な学習を考えて計画を立てられたよ。	・言語活動に一度挑戦させることで、今の自分にできること、できないことを認識し、それに合わせた学習計画を立てることができるようにする。 (課④)(評①②)	
二	1 ・ 2	＜計画に沿って学習を進めよう＞ いちばんの思い出を決めて、伝えたい内容を整理した。これまでに学習した表現などを使って録音したり、友達に聞いてもらったりして思い出を伝える練習や準備ができたよ。	・教師のモデルを聞くことで、目的に合わせた伝える工夫を考えることができるようにする。 (伝①③)	
三	1	＜小学校生活いちばんの思い出を 友達や先生に伝えよう＞ これまでに学習した表現などを使って、小学校生活のいちばんの思い出を友達や先生に伝えることができたよ。友達の思い出を聞いて、懐かしいなあって思ったり、同じ思い出でも理由が違って面白いなと思ったりしたよ。		話知 ①② 話思 ① 話態 ①②
	2	＜2学期の学習をふり返ろう＞ (ペーパーテストを含む) 過去のことを表す言い方などを使って、小学校生活の思い出を伝えることができた。友達の思い出を聞いて、共感したりその時のことを思い出したりしたよ。マイゴール達成のための学習計画を立てて、自分で考えて学習に取り組むことができた。	・ふりかえりの観点を示すことで、自らの学び方についてふり返ることができるようにする。 (評③)	聞知 ① 聞思 ① 聞態 ①

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

小学校生活の思い出を共有するために、先生の思い出を聞いて、いちばんの思い出を伝える学習の見通しをもつことができる。

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
10 20	1. あいさつ、Small Talk 2. 課題をたしかめる ＜マイゴールを決めよう＞ 3. ゴールとなる言語活動の場面設定を理解する ○先生たちはどんな思い出について話しているかな。	・コミュニケーションの目的、場面、状況を明確にするために旧担任教師の思い出を聞かせることで、どのようなことができればよいのかを理解できるようにする。
10	(Mr. Tanaka) My best memory is the World Kickball Classics in the 4th grade. We played Kickball in P.E. class. We made original rules. You practiced kicking a ball. We enjoyed the games. It was very fun. How about you? What is your best memory? (Ms. Dejima) My best memory is the farewell party in the 5th grade. We enjoyed making the party for 6th grade students. We made many stars. We made a drama. It was fun. We played music. It was beautiful. How about you? What is your best memory? ・田中先生は4年生のときのキックベースの話だね。 ・出嶋先生は6年生を送る会の思い出だね。 ○先生たちの思い出を聞いてどんな気持ちになったかな。 ・そんなことあったなあってとっても懐かしくなったよ。 ・相手に「こんな気持ちになってほしい」と考えるといいね。 4. マイゴールを決め、学習の見通しをもつ ○どんなマイゴールにしたいかな。 ・友達や先生にその時のうれしかった気持ちを思い出してもらえるように伝えたいな。 ・これからどんな学習をしていけばいいかな。学習することを書き出してみよう。	★思い出を聞いたときにどのような気持ちになったのかを問うことで、伝える相手の気持ちを考えてゴールを設定することの重要性に気付くことができるようにする。(課②)
5	5. 本時の学習をふり返る ○どんな学習をすると「課題を発見する力」が身に付いたかな。 ・伝える相手の気持ちを考えると、マイゴールを決めることができたよ。	◎小学校生活の思い出を共有するために、先生の思い出を聞いて、いちばんの思い出を伝える学習の見通しをもっている。 (活動の様子、ワークシート)